

カンガルーシップ活動
ネイバーサポートプロジェクト
実施報告書

報告日	平成 28 年 2 月 5 日
学校名	宮崎大学教育文化学部附属小学校
PTA 会長名	河野 修

実施概要	実施活動名	キッズサポーター会議「子どもが輝く」～みんなと共に～
	実施日時	平成 27 年 11 月 28 日（土）
	実施場所	宮崎大学教育文化学部附属小学校 体育館
	実施目的	いじめや不登校といった、個人のプライバシーの観点からあまり日常生活で表面化しない問題に対して、保護者からわが子に対してどのような家庭での指導・教育が適切かを、専門家の講話を元に保護者同士も連携して共通理解を図る
	実施内容	特別支援教育の専門家による、いじめ・不登校に至る要因と発達段階との関わりを知り、周囲の大人たちの接し方や学校、PTA としての理解度を習熟させる。
	実施方法	講演とディスカッション
	参加人数	56 名

報告事項	内容	<p>講師に元附属小学校 副校長の大村利弘様をお迎えし、「子どもが輝く～みんなと共に」というテーマで御講演いただきました。</p> <p>講演冒頭、人間関係には受信と発信が必ずあり、受け止め方、聞き方、伝え方、付き合い方によって人間関係は多種多様となる。相手が何を伝えようとしているのか、思いやりをもって感じ取る力が大事だという事です。子どもたちの輝く表情や場面に大人は気付いているか、ちゃんと褒めているか、否定ばかりしていないかなど身につまされる言葉がたくさんありました。</p> <p>子どもを輝かせるには鍛える事、磨く事、辛さを乗り越える事で心・軸を育てることに繋がり、子どもの自信と自己肯定感を育てるようです。また、子どもにつけさせたい力として社会性（対人関係・社会スキル）心のブレーキ（知識・思考力・判断力・抑制力）が求められ子どもの中で子どもは育つとし、トラブル・失敗が子どもを育てる。切磋琢磨することが重要だと言われました。</p> <p>講演の終わりには、なぜ附属小に入学させたのか、入学時の熱い思いを忘れないでください。とメッセージを頂きました。</p>
	結果	<p>多くの保護者、先生方が講演に参加していただきました。</p> <p>元 附属小学校の副校長という事で顔見知りがたくさんいる中で、和やかに講演がスタートされました。参加者の中には子どもの距離感、様々な場面での対応へのヒントが沢山あって参加して良かったと感想を述べられていました。</p> <p>講演終了後も講師ともっと話したいとの願いがあるなど参加者にとって有意義な講演となったようでした。</p>
	所感	<p>講演を依頼した際に附属の子どもたちの為ならと快くお引き受けいただきました。</p> <p>打合わせ場所は学校でしたいと言われ、お越しになられた際は学校を懐かしそうに見入っているのが印象的で、準備においても周到にいただき感謝でいっぱいです。</p> <p>結果から言えば勿体ないくらいいい話、もっと動員に力を入れていれればと反省。</p> <p>これからも、10 年後、20 年後の附属を見据えた活動をしていきたいと思います。</p>

添付書類

領収書



子どもが輝く

~みんなと共に





カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

提出日	平成 28 年 2 月 5 日
学校名	宮崎大学教育文化学部附属小学校
学年	

《保護者の感想》

- ・初めての参加でしたが附属らしい取組に感銘を受けました。
 - ・子どもたちへのこれからの対応に対して、不安が軽減しました。
 - ・多くの方に見守られながら子どもたちが学校生活を送れてると感じた。
 - ・人には発信者・受信者がいて受け取り方、発し方によって意味合いが変わってくると考えさせられた。
 - ・子どもの成長の瞬間に気が付いているか？という問いかけにハッとさせられた。
 - ・思ったより保護者の参加が少なかったのが気になった。
 - ・子どもの中で子どもは成長するとあり親がすべてにおいて干渉しすぎるのは子どもにとってはマイナスに作用する事もあると感じた。子どもとの距離感の保ち方を意識させられた。
 - ・子どもに自信を持たせること、自己を肯定する力を養うことが大事だと感じた。
 - ・講師の先生の穏やかな話し方が聞き心地がよく話に聞き入りました。
 - ・子どもによって特性があって比肩する必要はない。個性に向き合い対応することが大事だと感じた。
 - ・子どもの気になる特徴を個性と捉える事の大事さ考えさせられた。
 - ・今まで考えたことが無かったが、学校との連携、保護者同士の協力が子どもの成長に起因することに気が付いた。
 - ・特別支援教学級との関わりが、交流が多いのに感心した。
- ・その他類似案件 16 件